# 特許SDI×生成AI 導入のリアルとベンダー選定の着眼点（2026年最新動向）

2025〜2026年にかけて主要特許DBで生成AI機能の実装が相次いだものの、SDI（新着監視）における「完全自動判定」を実現しているサービスは一部にとどまります。
本インフォグラフィックでは、生成AIのSDI接続レベルの実態と、実務導入時に確認すべきポイントをまとめています。

## 生成AI×SDIの実装状況と技術的ギャップ

### SDI新着公報への「自動AI判定」は海外先行、国内は「サマリア」のみ

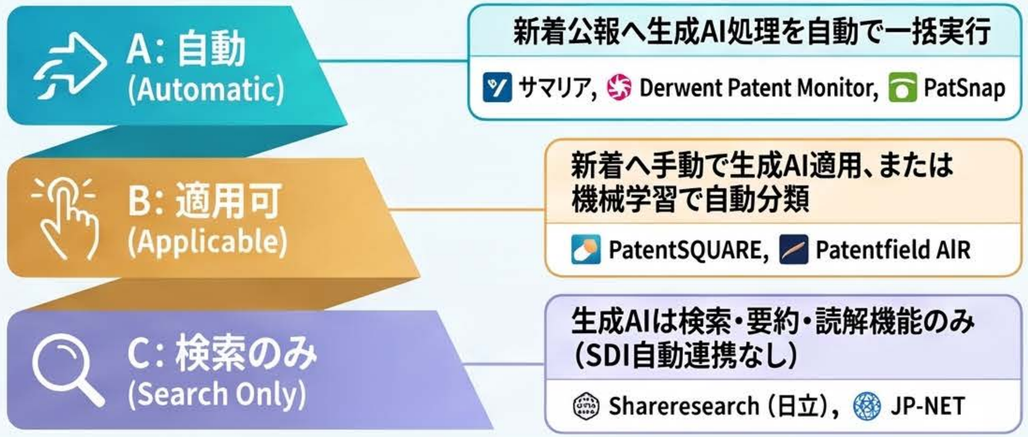



多くの国内DBにおける生成AIは検索・読解補助にとどまり、自動接続は未実装です。

「要約」は事前生成で普及、「判定」は自動化の壁が存在

監視テーマ毎に異なる関速度判定は、処理費用と見落としリスクが自動動擾続の課題です。

### 特許DBにおける生成AIとSDI接続度レベル（2026年最新動向）




## 知財実務におけるAI導入・選定のチェックポイント

### 機械学習（一次仕分け）× 生成AI（要約・解説）のハイブリッド運用が有効




大量のノイズ除去は従来型AI、内容把握は生成AIという分業が実用的です。

### 自社データ（ゴールドセット）による見落とし率の検証が必須




Gemini Notebook